

横浜市インフルエンザ流行情報 10 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

報告数が再上昇しました。

【概況】

2015 年第 4 週(1 月 19 日～25 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **26.89** と、**前週から上昇**しました。**増加の主体は 20 歳未満の患者で、学級閉鎖も増加**しています。

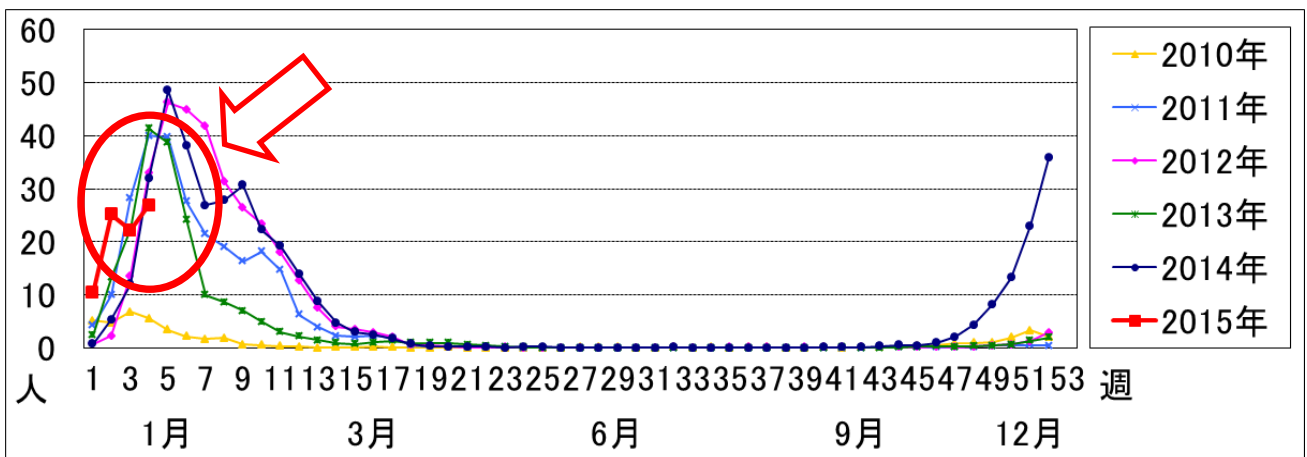
第 4 週の迅速キットの結果は **A 型が 98.3%**で、今シーズンはほとんど B 型の増加がみられていません。流行の主体は今まで同様 **AH3 亜型(A 香港型)**です。市内で検出された株では**主な薬剤への耐性は確認されていません**。予防にはワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策^{※2}が重要です。

※1 定点・定点とは、毎週インフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内約 150 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

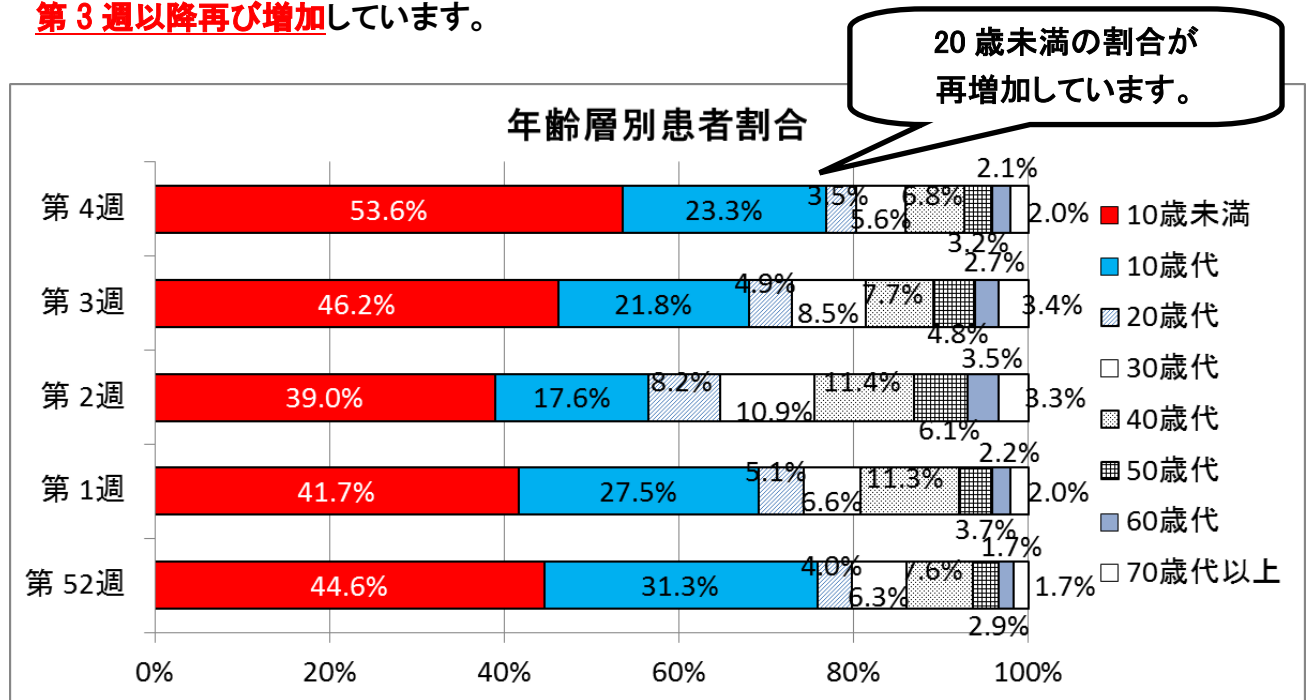
1 市内流行状況: 定点あたりの患者報告数が第 4 週 26.89 と、第 3 週 22.14^{※3}から再び上昇しました。今後の流行の動向に注意が必要です。なお、第 1 週(12 月 29 日～1 月 4 日)は 10.37 と低くなっていますが、年末年始で定点医療機関が休診中のことが多く、流行の実態を正確に反映していない数字です。

※3 第 3 週 22.14・前回の流行情報では第 3 週 22.35 と報告しましたが、その後医療機関から追加報告があり、数値が変動しました。

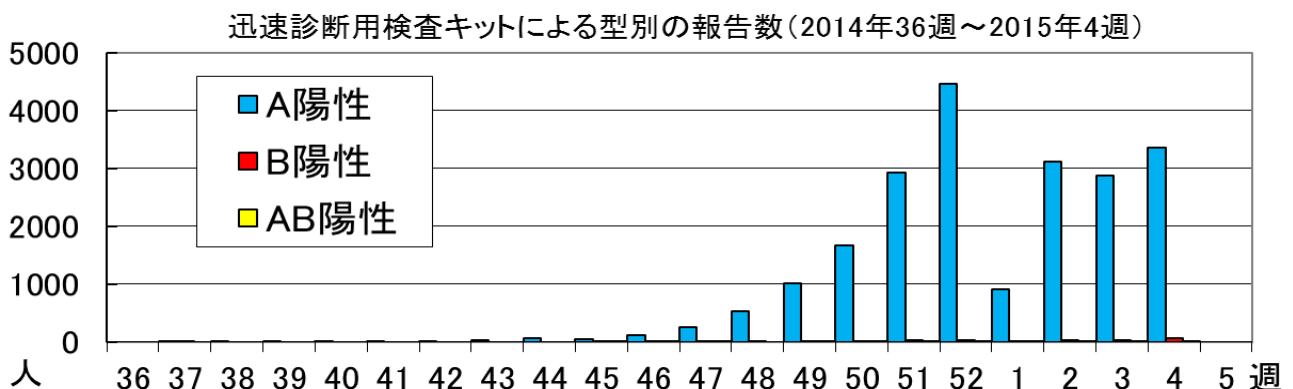


参考: 近隣自治体の流行状況 [東京都](#)、[神奈川県](#)、[川崎市](#)

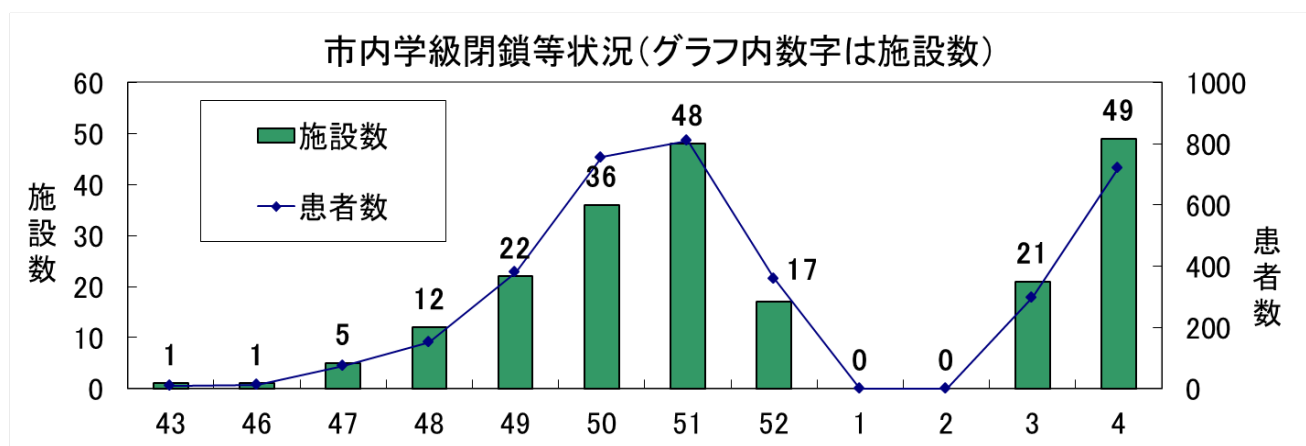
2 年齢層別患者報告数:第2週までは徐々に20歳未満の患者の割合が減少していましたが、**第3週以降再び増加**しています。



3 迅速キット結果:第4週はA型98.3%、B型1.6%、ABともに陽性0.1%と、**ほとんどがA型**です。

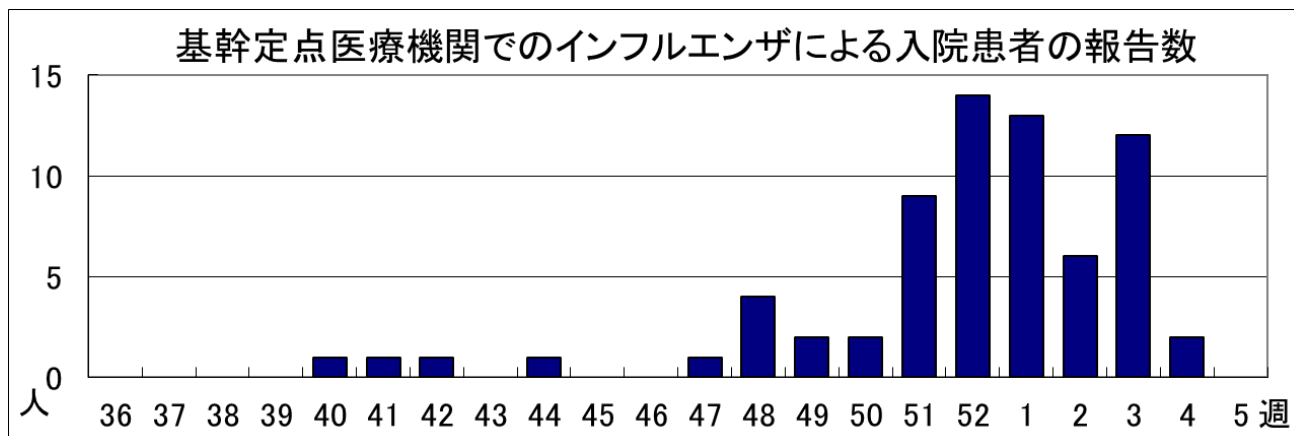


4 学級閉鎖施設数:市内閉鎖施設数は年明け以降**再び増加傾向**です。第4週の施設種別では、小学校36件、中学校5件、高校1件、その他1件でした。

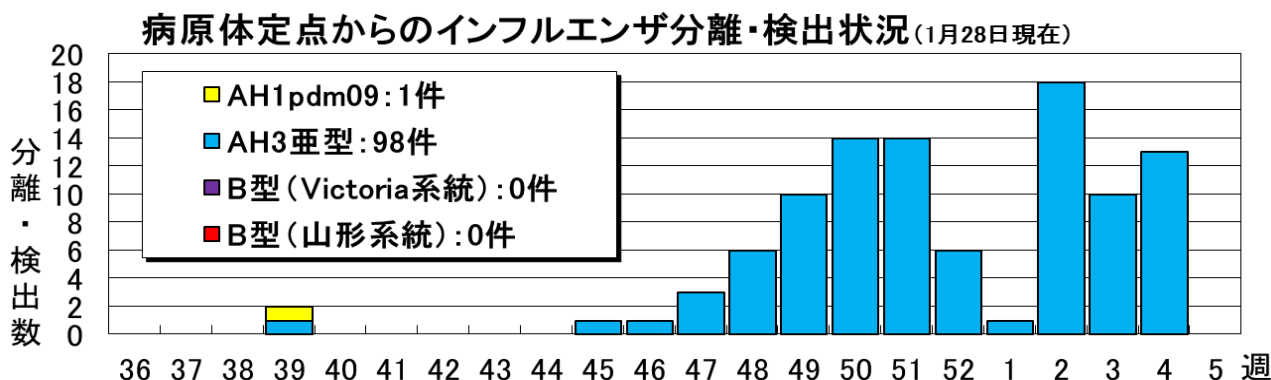


5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※4}におけるインフルエンザ入院患者では、第4週は前週に比べ減少しました。

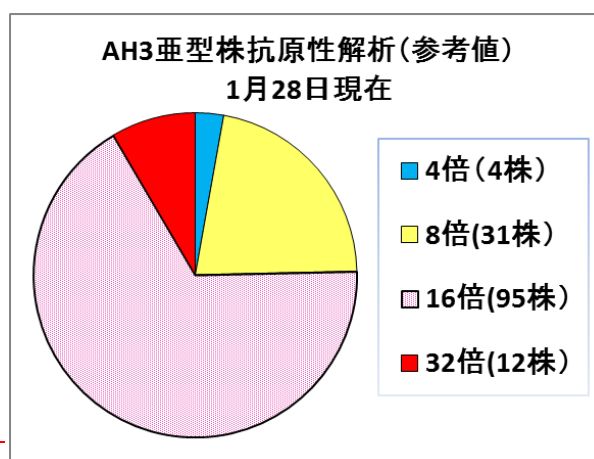
※4 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



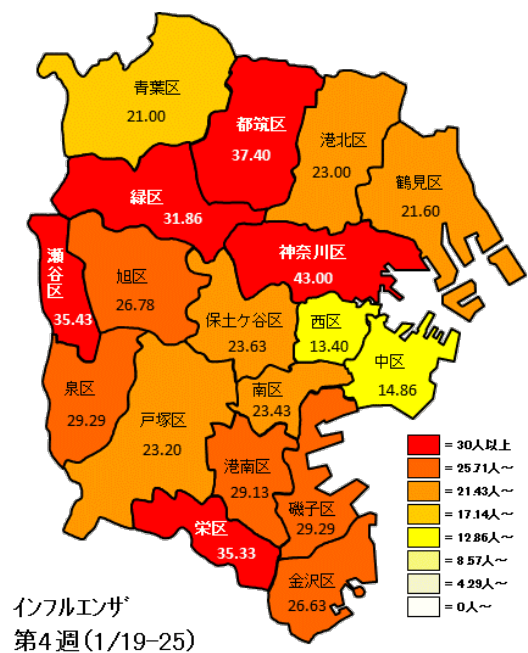
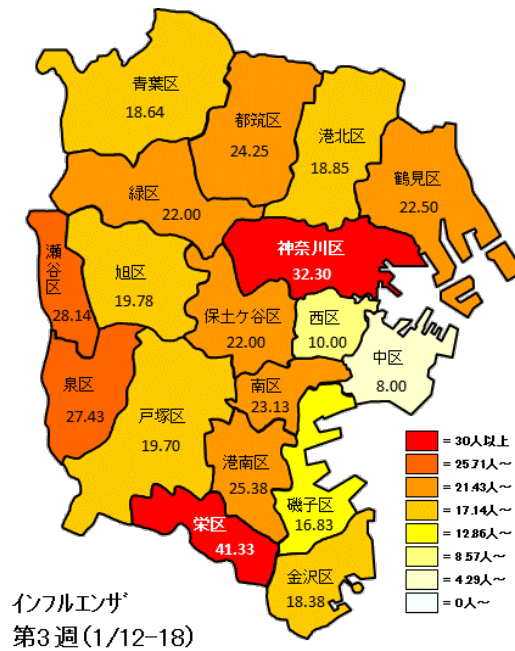
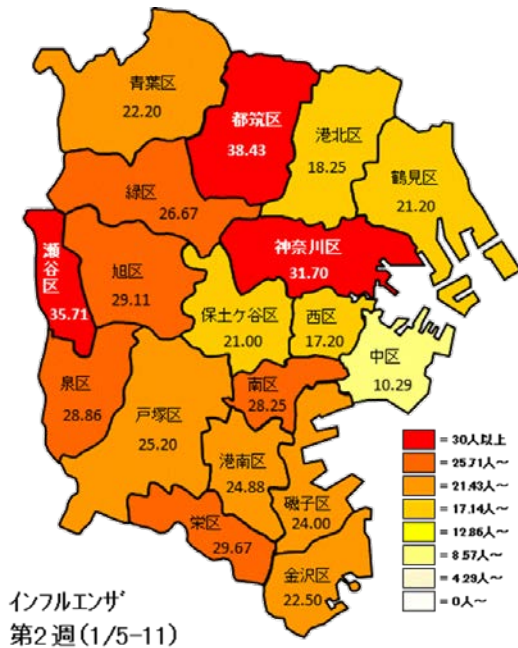
6 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から今シーズン計99件インフルエンザウイルスが分離・検出されていますが、第39週にAH1pdm09が1件検出されて以降はすべてAH3亜型です。



7 分離株の抗原性解析と薬剤感受性検査:市内で検出されたAH3亜型株(病原体定点以外も含む)のワクチン株との抗原性解析(HI試験)では、ほとんどの株がHI価8倍以上でした。一般的に4倍以内でワクチン株と類似していると言われていいます。ただ、今回の解析にはウサギの血清を使っており、参考値です。正確な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要があります。薬剤感受性試験では、横浜市内の株で今シーズン検査した範囲では、オセルタミビル(タミフル)、ペラミビル(ラピアクタ)、ザナミビル(リレンザ)、ラニナミビル(イナビル)への感受性低下は認めていません。



8 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237